

## ミヤコタナゴ

所在地 千葉県内（地域を定めず指定）

昭和49年6月25日指定

### 環境保全で、絶滅の危機を回避

ミヤコタナゴは、コイ科タナゴ亜種に属する日本の固有種である。かつては関東地方の小川などに広く生息していましたが、現在自然の環境でミヤコタナゴが生息している場所はごく限られた地域だけになってしまいました。明治時代の後半に、東京帝国大学（現在の東京大学）附属植物園の池で発見されました。戦後の経済成長や社会環境の変化により、生息環境は著しく破壊され、昭和49年(1974)に天然記念物の指定を受け、平成6年(1988)には国内希少野生動植物種にも指定されました。

全長は平均3～4センチメートルで、他のタナゴ類より小さく、全体に細長い菱形です。繁殖期には美しい紺色になります。メスは肛門の部分に細長い産卵管を下げ、それをマツカサガイやイシガイなどの二枚貝の水管に差して、数個の卵を産みつけます。卵は約4日後に孵化し、20～30日経過して体長が9ミリメートル近くになってようやく貝の外へ出ます。約1年で成魚となりますが、自然界での寿命は約2年程度です。

ミヤコタナゴの生息には、このようにマツカサガイなどの産卵母貝がどうしても必要となりますのですが、ミヤコタナゴとマツカサガイだけではなく、シマドジョウやホトケドジョウ、ヨシノボリなどの共生が必要であり、それらを含めた自然環境の保全が重要です。

ミヤコタナゴを捕獲することは、法律で厳しく禁止されています。



ミヤコタナゴとイシガイ



ミヤコタナゴ(写真提供:千葉県生物多様性センター)